



学力の伸びを把握する調査、全国学力・学習状況調査(3年生対象)結果公表

5月に実施された学力・学習状況調査及び全国学力・学習状況調査の結果及びその分析、今後の手立て等について以下の通りご報告いたします。今後とも本校生徒の学力向上への取組につきまして保護者・地域の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

学力・学習状況調査 実施日:令和5年5月11日(火) 実施学年:全学年で実施(小4~中3まで実施)
○本調査では実施教科の国語,数学,英語において「学習内容がしっかりと身につけているか」と「個々の学力がどれだけ伸びているか」を視点に学力の「伸び」を把握することができます。学力のレベルについては、学力の範囲を一定の間隔で上から12~1の12段階に分割して設定し、さらに各段階を上からABCに分けて示しています。生徒一人一人や学校の学力を36段階のレベルで見ることになります。(1-C→4-C→4-B→4-A→5-C→5-B→5-A→…12-A)

【各教科の平均正答率(%)】

学力	1年		2年			3年		
教科	国語	数学	国語	数学	英語	国語	数学	英語
駅家中	65.7	59.6	63.7	58.2	56.7	55.0	59.8	43.5
福山市	61.4	53.6	57.3	54.1	46.5	50.9	55.1	43.0

【学力のレベルと伸び】

学 年		国語			数学			英語		
		令和4	令和5	伸び	令和4	令和5	伸び	令和4	令和5	伸び
1 年	駅家中		8-C	—		7-B	—			
	福山市		7-A	—		6-A	—			
2 年	駅家中	8-C	8-A	2	7-C	8-C	3		9-B	—
	福山市	7-A	8-C	1	7-C	7-A	2		8-A	—
3 年	駅家中	8-B	8-A	1	7-A	8-A	3	8-B	9-B	3
	福山市	8-C	8-B	1	7-B	8-C	2	8-B	9-B	3

正答率においては、1年は国語・数学ともに市平均を上回る(4.3~6pt)、2・3年は国語・数学・英語ともに市平均を上回る(4.1~10.2pt)結果となりました。市平均からみると力をつけています。

また、学力を伸ばした生徒の割合は、1年生国語で71.1%(市65.7%)数学で67.0%(市63.0%)、2年生国語で68.4%(市62.3%)数学で78.9%(市63.7%)、3年生国語で50.5%(市55.4%)数学71.6%(市71.5%)英語81.9%(市74.5%)と3年生国語以外は市平均の割合を上回っています。

上記の“伸び”の数値も3年生国語・英語は市と同等、それ以外は市を上回っているという結果となりました。

とはいえ、どの学年のいずれの教科においても、「読解力」「記述式の解答」で平均を下回っているのが現状です。これらの結果を受け、特に生徒の「読解力」を一人一人が着実に付けられるよう昨年度に引き続き、学校課題として研究を深めてまいります。

全国学力・学習状況調査(3年生対象)

平成 19 年度から始まった全国調査です。今年度は 4 月 18 日に、3年生を対象に国・数・英で実施されました。その調査結果が7月末に公表されました。各教科の平均正答率は次のとおりです。

【各教科の平均正答率】

教科	駅家中	全国	広島県	福山市	課題となっているもの
国語	66	69.8	70	66	本文を根拠にして解答を選択する力。選択肢を的確に読み取る力。
数学	44	51.0	49	45	無回答率が高く、問題の内容を読み取る力。
英語	36	45.6	43	38	単語の意味が分からない。求められている文章を探せる読解力。

残念ながら、3教科とも国の平均正答率を下回る結果でした。この結果を大変厳しく受け止めています。

今回の結果を分析し、2学期からの授業で、次のとおり、取り組んでいきます。

- 《 国語 》 ①長文読解につながるよう、短い文章を読む活動を授業に取り入れる。
②生徒が興味・関心を持つような導入の工夫をする。
③自分の考えを表現できる力をつけさせる。(書く・話す)
単元を通して、どのような力がついたら良いか明確にする。
- 《 数学 》 ①基礎学力定着のため、復習を毎時間行う。(ペア・グループでの教え合いやミニティーチャーを活用する)
②日常により近い課題の問題解決学習をする。
③単元のまとめのレポート作成する。
- 《 英語 》 ①ラウンドシステムと並行して英文の文法指導をする。
②英文の語順を理解し、英文が書けるようになる帯活動を仕組む。
③ラウンドシステムの効果的な指導を研修し、実践に繋げる。

<読み物>

SNS 利用による「正しい日本語」離れ

SNS でのコミュニケーションが、読解力低下の一因だと言われています。この理由は、SNS 上では正しい日本語に触れる機会が少なくなるためです。絵文字やスタンプ、SNS 独自の略語が顕著な例だと言えるでしょう。それらだけで会話が成立してしまうので、知らない言葉に触れる機会が失われてしまいます。

また SNS では単語ベースの会話が行われるため、主述関係など文章構造の理解も曖昧になってしまうのだと考えられます。

ただしこれを解決するために、「SNS を利用させない」というのは現実的ではありません。そこで今日から簡単に実践できる方法を 1 つご紹介します。それは「保護者の方との会話や連絡では、正しい日本語を使うルール」を設けることです。日々の意識作りを促すことで、読解に必要な正しい日本語が身に付いていくでしょう。

《英語 IBA について》

10月中旬に県内の全公立中学校生徒を対象とした英語アセスメントテスト（英検 IBA）が実施されます。内容は、リスニングとリーディングの2技能で構成、全てマークシート式になっています。

配付しているアカウントとパスワードを使って、スタディギア for EIKEN ベーシックの Web ページにアクセスし、学習を進めてください。